

せりなべ

宮人ハ語ル

腫瘍内科特集

おしえてせり爺!

診療前面談について



みやびと 宮人、語ル



腫瘍内科 特集

寄り添う医療を目指して 腫瘍内科医としての歩み

私が腫瘍内科医を志したきっかけは、大学5年生の臨床実習での出会いにありました。幼い頃から細かい作業をすることが好きだった私は、大学入学当初、心臓血管外科や脳神経外科などの外科系の道へ進むことを漠然とイメージしていました。しかし、臨床実習で腫瘍内科の先生方の診療を目の当たりにし、強い衝撃を受けたのです。彼らは私が理想と考えていた、「寄り添う医療」を患者さんとそのご家族に実践していました。その後は、腫瘍内科医として働くことを常に意識するようになったことを鮮明に覚えています。学生時代、朝から晩までテニスに明け暮れていた私（今でも週1〜2回、早朝テニスを続けています）が、明確に医師の道を意識し、「医師の卵」になった瞬間でした。

腫瘍内科の規模が県内屈指の大崎市民病院で臨床研修を行った後は、東北大学病院に戻り、診療に携わりながら、がん関連遺伝子の中でも代表的なTP53遺伝子の研究を行っていました。多くの先生方にご指導をいただきながら、がん腫横断的な遺伝子発現解析を絡めた研究を進めたことで、医学博士号を取得することができました。その後さらに東北

大学病院で診療に従事した後、2024年4月からは宮城県立がんセンターに異動し、新たな環境で診療に当たっています。

赴任して以来、当院の多職種連携や診療科間の円滑な協力体制には心底驚かされました。職員一丸となって患者さんとそのご家族をサポートする体制が整っており、がん診療で最も大切な要素である「柔軟性」を備えた素晴らしい環境だと感じています。

腫瘍内科医の役割

腫瘍内科は主に抗がん剤治療を専門とする科です。当科では特に消化器がん（胃がん、大腸がん、膵がんなど）を中心に、原発不明がんや希少がんも含め、がん全般を幅広く診療しています。

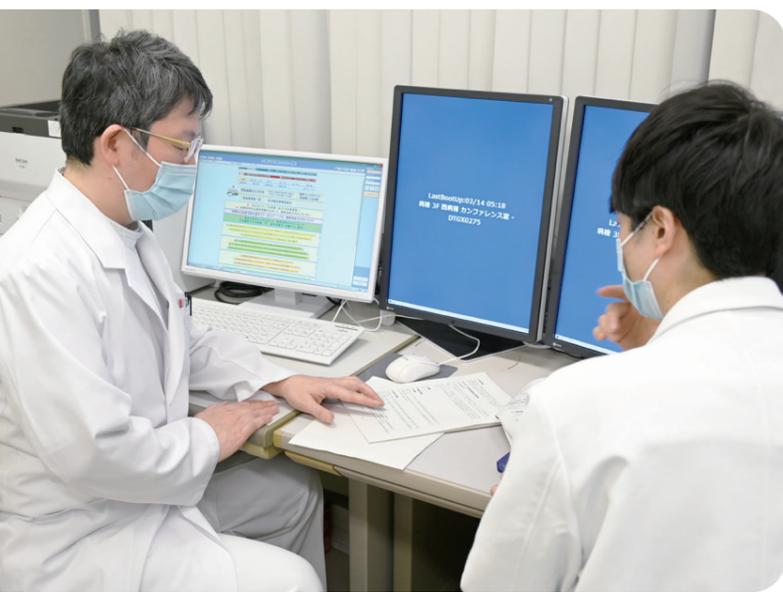
私たちの役割は、がんを完全に治す「治癒・根治」だけではありません。それを目指すことが難しい状態の患者さんに対して、「延命」を目的とした治療を提供することも重要な役目です。「延命」と一言で表すと冷たいニュアンスを感じることもあるため、私は、「がんと共に生きつつ、より良い時間を、より長く過ごす」ための治療と表現することも多いですね。「より良い時間」とは、がん自体による症状だけでなく、治療による強い副作用によっても

悩まされることなく、やりたいことを自由に出来る時間、と説明しています。治療の効果と副作用のバランスを取りながら、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できるように努めています。

患者さん一人ひとりに

最適な治療の模索

昨今、がん治療の選択肢は非常に多様化し、複雑になってきています。そんな中で、私たち腫瘍内科医の役割は、全体の治療構成を俯瞰的に捉え、患者さん一人ひとりに最適な治療を提案することだと考えています。



そのため、当科では毎日朝晩にカンファレンスを行い、病態だけでなく、患者さんを取り巻く環境も含めて多面的にディスカッションしています。必要に応じて他職種とも連携をとり、患者さんの真のニーズに合った、より良い治療の提供を目指しています。

また、副作用も多様化しているため、院内の他科との連携はもちろん、他の医療機関との連携にも力を入れています。例えば、薬剤性肺炎を発症した場合には呼吸器内科に、消化器系のトラブルが起これば消化器内科に併診を依頼し、とても迅速にご対応いただいています。また、目に副作用が出た場合には当院の眼科を経由して東北大学病院へ紹介したり、皮膚に副作用が出て、急ぎの場合には、患者さんのご自宅近くの皮膚科の先生に紹介することもあります。このように、院内だけでなく、地域の医療機関とも連携し、患者さんの副作用・症状を適切にマネジメントできるように努めています。

患者さん中心の医療を目指して

私たちが提供する医療は、「治療のための治療」ではありません。あくまでも、患者さんが「より良い時間を、より長く」過ごすための治療です。ですから例えば、大切なご家族の結婚式に出席するために治療日程を調整し

たり、思い出の場所へ旅行するために治療を一時お休みしたりすることもあります。逆に、多少副作用が辛くても、治療効果を最優先にしたい、という希望があれば、それを達成するために全力でお手伝いします。また、がん治療は高額になることが多いため、経済的な不安を抱える方も少なくありません。当院には医療費や各種制度・サービスについて相談できる窓口があり、サポートも充実しています。患者さん一人ひとりに、柔軟に対応していきたいと考えていますので、是非ご希望をお聞かせください。

おわりに

がんという病気は、患者さんとそのご家族にとって大きな試練です。しかし、私たち医療者がチームとなつて寄り添い、共に歩んでいくことで、その困難な道のりを少しでも和らげることができると信じています。これからも、患者さんとそのご家族の人生に真摯に向き合い、寄り添い、最善の医療を提供できるように努めてまいります。

執筆者プロフィール

佐々木 啓寿 (ささき けいじゅ)

岩手県盛岡市出身。

2016年3月：東北大学医学部医学科卒業

2016年4月：崎市民病院にて初期・後期研修

2019年4月：東北大学病院腫瘍内科 医員 (大学院)

2023年3月：東北大学大学院医学系研究科 卒業
医学博士取得

2023年4月：東北大学病院腫瘍内科 医員 (博士)

2023年10月：東北大学大学院医学系研究科 助教
(東北大学病院腫瘍内科 兼務)

2024年4月：宮城県立がんセンター腫瘍内科 医長

宮人を知る



看護師
第一外来

佐々木先生は、病気や治療の説明がわかりやすく「とても勉強になる!」と思える先生です。柔軟なコミュニケーションで、患者さんが抱える疑問や症状などの質問に対して、しっかりと受け止め、個々の患者さんに応じてどのように対処していくかを具体的にお話しされています。また治療に向き合う患者さん・ご家族をねぎらい、治療効果が得られた時はその喜びを共に分かち合う姿も印象的です。真摯に診療に携わる姿は、患者さん・ご家族だけではなく看護師や医師事務作業補助者にとっても心強い存在です。



看護師
小沼 望 さん

佐々木先生は、患者さんから「いつも話を聞いてくれる、何でも聞いてくれる。」と信頼も厚く、特に女性の患者さんから人気です。また、「紅茶に蜂蜜を入れて飲んでいらっしゃるらしい・・・」という噂から、密かに『ハチミツ王子』と呼ばれています。スタッフへの気遣いも忘れず、いつも気さくに話しかけてくださいます。

地元愛も強く、岩手のご当地キャラクターのバッジを着けていたり、休日当番の際は趣味のテニスで汗を流してから出勤するなどリフレッシュも忘れません。3階西病棟の貴公子をこれからもよろしく願います。



血液内科
齋藤 陽

悪性リンパ腫の特徴と治療について

悪性リンパ腫は血液内科領域の『がん』の一つですが、患者さんにとって病気や治療の実際をイメージしにくいと思いますので、簡単に解説します。すべての血液細胞の源である造血幹細胞は、一部がリンパ球に分かれて成長し、それぞれの役割を果たします(分化・成熟)。リンパ球にはB細胞、T細胞、NK細胞といった系統があり、それらのリンパ球が『がん』化したものが悪性リンパ腫です。由来する細胞の分化段階や遺伝子変異・染色体異常などによって悪性リンパ腫としての性質が異なります。詳細な病型は数十種類に及びます。進行が遅いため無治療経

過観察も可能な病型もあれば、急速に進行するため速やかに治療を行う必要がある病型もあります。若年者に発症しやすい病型もあれば、逆に高齢者に発症しやすい病型もあります。悪性リンパ腫は典型的にはリンパ節が腫れることが多いのですが、あらゆる臓器に病変をつくることもあるため、病変部位によって症状は異なります。悪性リンパ腫の治療の基本は全身化学療法です。古典的な抗がん剤を複数組み合わせる治療が今でも化学療法の中核ですが、近年は分子標的薬や抗体医薬といった新薬が登場し、さらにはキメラ抗原受容体発現T (CAR-T) 細胞療法や二重特異性抗体といった、患者さん自身の免疫細胞を利用した新規治療も実用化されています。治療選択肢は広がっています。病気の診断はもちろんのこと、患者さんの体力・臓器機能やご希望を踏まえて、患者さん一人ひとりにとつて最適な治療の提供を目指したいと思っています。

ドクターは伝えたい『がん』のこと



乳腺外科
飯田 雅史

乳癌と運動療法

乳癌は女性にとって最も罹患率の高い癌腫ですが、近年、運動療法がその予防や治療、再発防止に有効であることが明らかになっています。

まず、運動は乳癌の発症リスクを低減するとされています。定期的な運動により、女性ホルモンの過剰分泌が抑制され、ホルモン受容体陽性乳癌の発症リスクを低減させる効果が示唆されています。特に閉経後の女性にはより有用と考えられています。また、運動による免疫機能の向上や抗炎症作用も、乳癌の発症リスクを低減する要因となります。

多くのメリットをもたらします。抗がん剤や放射線治療の副作用として現れる倦怠感や筋力低下、体重増加などを軽減します。運動によって副作用が軽減されることで、抗がん剤の投与量を維持したまま治療を継続した結果、十分な治療効果を得ることが期待できます。さらに、乳癌治療後に定期的な運動習慣を持つことで、乳癌の再発リスクがほぼ確実に低下すると言われています。

運動を行うことは乳癌に対する効果だけでなく、生活習慣病などの予防・改善にも繋がります。また適度な運動は気分を安定させ、不安やうつつの症状を和らげる効果も期待できます。再発予防には、汗をかく程度の負荷の運動を週に2〜3時間行うことが推奨されていますが、運動習慣がない方が実際にを行うにはハードルが高いと思えますので、まずは無理なく継続できる範囲の運動を日々の生活に取り入れることを心がけてみましょう。

おしえてせり爺! がん専門薬剤師による

診療前面談



宮城県立がんセンターで行っている がん薬剤師外来 診療前面談について

当院では、薬剤師が外来患者さんと面談する場面が二つあります。

一つは、手術等で入院の予定のある患者さんを対象とした「入院前薬剤師外来」もう一つは、通院で抗がん剤治療を受ける患者さんを対象とした「がん薬剤師外来」です。

がん薬剤師外来で薬剤師が患者さんと面談を行うタイミングは二つのケースがあり、患者さんの状況により面談のタイミングが異なります。一つは「主治医の診察後」化学療法室にて抗がん剤投与中にベッドサイドで行います。もう一つは「主治医の診察前」診察室などの個室で行います。こちらがいわゆる薬剤師による診察前面談です。抗がん剤の種類は多様化しており、副作用への対応も薬の種類によって異なります。医師の診察前にがん専門薬剤師が患者さんと面談を行い「抗がん剤による副作用が出ていないか」「内服薬の場合は「飲み忘れがないか」などを確認します。抗がん剤による副作用が疑われた場合には、専門的な知識と経験をもとに、その副作用に対応するための薬の提案や、抗がん剤の投与量調節の必要があるか、休薬したほうが良いかなどを考えます。これらの提案内容を含む面談結果は、診察前までに医師へ伝えます（写真参照）。薬剤師の面談を経て主治医の診察を受けていただくことで、よりスムーズに、そして安全に治療を受けていただけるかと考えています。

診察前面談のメリット

- 先に薬剤師と話すことで、医師へ伝えたい内容を整理することができる。
- 抗がん剤の副作用への対応がより細やかに行える。
- 必要な薬を過不足なくスムーズに処方に反映できる。

診察後面談のメリット

- 点滴中の時間を使うため、落ち着いて話ができる。
- 医師へ伝え忘れたことなどを話すことができる。
- 処方された薬剤に関して相談ができる。

がん薬剤師外来 診療前面談の流れ



来院

採血・検査



薬剤師の 診療前面談



抗がん剤投与



主治医診療

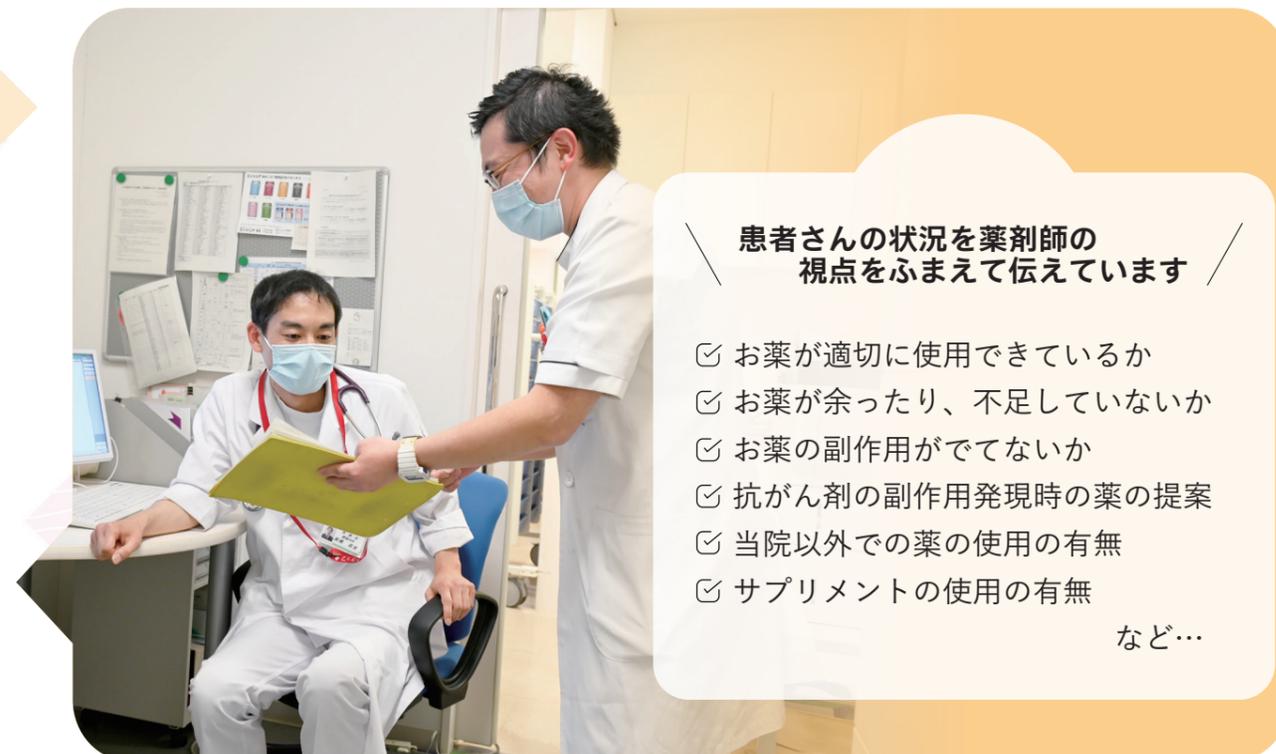


会計

患者さんの状況を薬剤師の 視点をふまえて伝えています

- ☑ お薬が適切に使用できているか
- ☑ お薬が余ったり、不足していないか
- ☑ お薬の副作用がでていないか
- ☑ 抗がん剤の副作用発現時の薬の提案
- ☑ 当院以外での薬の使用の有無
- ☑ サプリメントの使用の有無

など…



栄養の本棚

～食べ物と健康のお話～

栄養管理室

今回のテーマは…

減塩について

食塩摂取量の目標値^{※1}を見てみましょう！

^{※1} 18歳以上における1日あたりの食塩摂取量の目標値

性別	目標値 ^{※2}	全国平均 ^{※3}	宮城県の平均 ^{※4}
男性	7.5g 未満	10.7g	11.2g
女性	6.5g 未満	9.1g	9.7g

出典：^{※2} 「日本人の食事摂取基準」（2025年度版）報告書

^{※3} 令和5年度国民健康・栄養調査、^{※4} 令和4年宮城県県民健康・栄養調査

なんと!! 目標値を3g以上オーバー!!



無理のない減塩のコツ

① いつもの食品の塩分量を確認しましょう



塩分の少ない食品に替えるだけで減塩できます！

② 塩分の多い食品に注意！



漬物、練り物、食肉加工品などは塩分を多く含むため食べ過ぎに注意が必要です。

③ 食べる量や回数に注意！



減塩にしても量や回数が増えてしまえば、かえって塩分摂取量を増やしてしまいます。

④ 麺類の汁は残しましょう！



⑤ 調味料は「かける」より「つける」



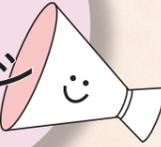
食べ方を少し気を付けるだけで塩分が減らせます！



患者さん、ご家族ともにサポートしています

がん化学療法は、がん治療において重要な役割を果たしますが、同時に様々な副作用症状をとまなうことがあります。私たちががん化学療法看護認定看護師は、患者さんやご家族の心身の負担を少しでも軽減し安心して治療を受けられるようサポートしています。

知ってる？ /
がん化学療法看護
認定看護師のオハナジ



がん化学療法看護認定看護師の活動

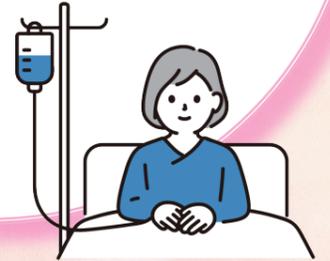
がん化学療法を受ける患者さんへの直接的なケアだけでなく、医療スタッフへの教育や指導にも携わっています。化学療法リンクナース会では、リソースナースとして活動し安全な医療の質向上につとめています。



看護ケアの実際

がん化学療法に関する情報提供や副作用対策、心理・社会的なサポートなどをおこなっています。多職種と連携しながら、患者さんの状態やニーズに合わせた個別的なケアを患者さんとともにすすめていきます。

- **治療に関する情報提供**：がん化学療法の内容やスケジュール、副作用症状の予防と対策、生活での注意点などをわかりやすく説明します。
- **副作用対策**：吐き気や脱毛などの副作用症状を軽減するための方法や、つらい症状の緩和ケアについてアドバイスします。
- **心理・社会的なサポート**：治療への不安や心配を抱える患者さんの気持ちに寄り添いサポートをおこないます。
- **日常生活へのご支援**：治療中の生活を送る上での注意点やアドバイスをを行い、患者さんのセルフケアを支援します。



患者さんご家族へのメッセージ

がんと診断された時、そしてがん化学療法を受けることに不安や心配を抱える患者さんは多くおられます。私たちは、患者さんご家族が安心して治療を受けられるようチーム医療の一員としてサポートさせていただきます。どんなことでも構いませんので、不安や疑問があればいつでもご相談ください。





がん治療の前に /
にんようせい
妊孕性温存治療

考えてみませんか？

妊孕性とは妊娠するために必要な力のことです。がん治療の中には妊娠に関わる機能に影響を及ぼすものがあります。若い世代のがん患者さんが将来お子さんを持つ可能性を残す選択肢として妊孕性温存治療・生殖機能温存治療がありますが、これらは自費診療です。

宮城県ではがん診療を行う病院と生殖補助医療を行う病院のネットワークを作り、がん患者さんが将来に希望を持ってがん治療にのぞめるよう、サポートしています。またこれらの費用の一部を助成する制度があります。

がんの臓器やタイプ、必要となる治療、また患者さんの状況によって適応は異なるため、検討する際には主治医の先生と相談が必要です。助成制度についての詳細は、宮城県ホームページに掲載されていますのでご参照ください。

宮城県がん・生殖医療ネットワーク

利用の流れ



01 原疾患（がんなど）治療施設

- ▷ 主治医に妊孕性温存治療を受けられる可能性についてご相談ください。
- ▷ 治療を希望される場合は主治医からコーディネーターへ連絡し^{*}、受診予約を取ってもらってください。

02 コーディネーター治療施設
(東北大学病院婦人科または宮城県立がんセンター婦人科)

- ▷ カウンセリングを行います。(性腺毒性と妊孕性温存治療について説明します)
- ▷ 妊孕性温存治療の可否をコーディネーターが判断します。
- ▷ 組織保存(精子や卵子または受精卵)による妊孕性温存治療の適応がある場合には、生殖医療施設の受診予約をとります。

03 生殖医療治療施設
(仙台 ART クリニック、京野アートクリニック仙台、スズキ記念病院、東北大学病院)

- ▷ 組織保存(精子や卵子または受精卵)による妊孕性温存治療を行います。

※ 主治医の先生へ
【コーディネーター治療施設】
東北大学病院婦人科 → 022-717-7754 に直接お電話ください。
宮城県立がんセンター婦人科 → 地域医療連携室 (022-381-1169) に登録票と相談外来申請書をFAXしてください。

宮友 登録医療機関紹介

県内の医療に寄り添う
連携医療機関を
ご紹介いたします。

ゆりあげクリニック

ゆりあげクリニックの溝井と申します。私は名取市閑上地区で診療をしておりましたが、2011年の東日本大震災によりクリニックは全壊してしまい、現在のクリニックは、2013年1月に名取市美田園にて開業し12年目を迎えました。

元々は外科医でしたが、現在は生活習慣病や新型コロナ・インフルエンザ等感染症などの診療、関節痛や神経痛などの診療、健康診断やワクチン接種、外傷・熱傷・褥瘡の処置など、内科・外科・整形外科全般を幅広く診療しております。日常の診療の中では、悪性疾患を疑う症例に遭遇することも少なからずあり、がんセンターの諸先生には日頃大変お世話になっております。今後も、地域の皆様のかかりつけ医として少しでもお役に立てることを一番に考えて、スタッフともども力を合わせて診療していきたいと考えております。



みぞい たかゆき
院長 溝井 賢幸

- 【休診日】日曜、祝日、月・水・土曜午後
- 【診療受付時間】8:45～12:00 / 14:45～18:00
月・水・土曜日 8:45～12:30
- 【電話番号】022-738-7081
- 【住所】宮城県名取市美田園 7-17-3
- 【診療科】内科/外科/整形外科

公式HP



宮城県立がんセンターの

ボランティア活動

- ▷ ボランティア「ひだまり」の活動の中から、今回は「院内の図書管理」についてご紹介いたします。
- ▷ 図書管理は、外来の各所にある雑誌や書籍の管理、図書室(がんセンター7階)の図書整理及び管理をおこなう活動です。毎日、各病棟・外来にあるボックスに返却された雑誌や書籍を回収し、ボランティアが手作業で表裏表紙の消毒作業をおこなっています。
- ▷ 図書室にはさまざまなジャンルの本を取り揃えています。入院患者さんだけでなく、外来診察をお待ちの患者さんやそのご家族、どなたでもご利用できますので、ぜひ一度お立ち寄りください。



せりなべ12号

編集後記

事務局「せりなべ」編集担当 高橋央

3ヶ月に1度お届けしている「せりなべ」も今回の号で3クール目の最後の号となります。毎回、何の特集にしようか、何をトピックにしようかと悩んだり、相談しながら創刊号から早丸3年になります。今回は腫瘍内科を中心にそれに関わる多職種の業務などを特集させていただきます。これからもがんに関する特集や、お役立ていただけるような情報を発信してまいりますので、引き続きせりなべをご愛読よろしくお願いたします。

いたばし内科外科クリニック

昨年5月に岩沼市内に『いたばし内科外科クリニック』として開業させて頂きました板橋英教と申します。開業から約1年となり、これもひとえに地域の皆様や諸先輩先生方のおかげと心より感謝申し上げます。

岩手で消化器外科医をして研鑽を積み、東日本大震災後の帰省の際に、生まれ育った岩沼で地域医療に貢献できないかと考え始め、7年間総合南東北病院で勤務し、昨年の開業に至っております。

現在、難しい症例に対しては総合南東北病院の他、宮城県立がんセンターなど多くの病院、クリニックとの連携体制を作って頂いており、患者様の病気に対する不安が減るよう心掛けております。診療に関しても、地域のクリニックとして、地域の皆様とともに成長できればと考えております。今後とも宜しくお願いたします。



いたばし ひでのり
院長 板橋 英教

- 【休診日】水曜、日曜、祝日、土曜午後
- 【診療受付時間】9:00～12:00 / 14:30～17:30
土曜日 9:00～14:30
- 【電話番号】0223-35-7025
- 【住所】宮城県岩沼市桜2丁目2-16
- 【診療科】内科/外科

公式HP





みやふおと

撮影 広報担当



みやがん広報室からのお知らせ

● がん情報ラジオのお知らせ

当センターでは、がんセンターのスタッフががんに関する話題を紹介していくラジオ番組「がん情報ラジオ」をエフエムなとりにて放送しています。放送時間は、毎週金曜日夕方 5 時 30 分から 5 時 44 分、翌日土曜日の午前 9 時 15 分から 9 時 29 分に再放送も行ってまいります。



● ご意見・ご感想の募集

広報誌「せりなべ」に関するご意見・ご感想を募集しております。下記のフォームから皆さまの声をお寄せください。

● SNS アカウントを開設しました

ぜひご登録ください。



○せりなべの料理人

編集委員長：海法道子

副委員長：猪岡京子、菅尚明

編集委員：鎌田真弓、渡邊香奈、大久保鉄平、佐藤美和、佐藤夏苗、佐竹直子、山口佳代、高橋央、能登ちひろ

写真・構成：能登ちひろ、高橋央、野村結花、森谷風太

宮城県立がんセンター広報誌

せりなべ 春号 2025年4月1日発行 Vol.12

みやがん広報室

検索

本誌はホームページからもご覧いただけます。



地方独立行政法人宮城県立病院機構

宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1

<https://www.miyagi-pho.jp/mcc/>

【広報誌に関するお問合せ】 TEL 022-384-3151 (代)

